

# 平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年1月31日

上場取引所 大

上場会社名 石垣食品株式会社

コード番号 2901 URL <http://www.ishigakifoods.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 石垣 裕義

問合せ先責任者 (役職名) 経理部経理課 課長

(氏名) 小西 一幸

TEL 03-3263-4444

四半期報告書提出予定日 平成23年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年12月31日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	437	7.8	3	—	3	—	7	—
22年3月期第3四半期	405	△13.4	△12	—	△9	—	△6	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第3四半期	2.51	—
22年3月期第3四半期	△3.03	—

(参考)持分法投資損益 23年3月期第3四半期 — 百万円 22年3月期第3四半期 — 百万円

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第3四半期	440	362	82.3	107.08
22年3月期	364	263	72.2	116.31

(参考)自己資本 23年3月期第3四半期 362百万円 22年3月期 263百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
23年3月期	—	0.00	—	—	—
23年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注)当四半期における配当予想の修正有無 無

## 3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	568	15.0	8	—	8	—	11	—	3.82

(注)当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他 (詳細は、【添付資料】P.3「その他」をご覧ください。)

- (1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無  
 新規 ― 社 (社名 )、 除外 ― 社 (社名 )  
 (注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

- (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有  
 (注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

- (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更  
 ① 会計基準等の改正に伴う変更 有  
 ② ①以外の変更 無  
 (注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

- (4) 発行済株式数(普通株式)  
 ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 23年3月期3Q 3,390,000株 22年3月期 2,265,000株  
 ② 期末自己株式数 23年3月期3Q 1,779株 22年3月期 1,779株  
 ③ 期中平均株式数(四半期累計) 23年3月期3Q 3,020,039株 22年3月期3Q 2,263,221株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続を実施中です。  
 なお、この四半期決算短信は、同レビュー手続の対象外であります。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は、当社が現時点で把握可能な情報から判断する一定の前提に基づいた見込みであり、多分に不確定な要素を含んでおります。  
 実際の業績は今後様々な要因によって当社の見込みと異なるかもしれないことをご承知おきください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	2
2. その他の情報 .....	3
(1) 重要な子会社の異動の概要 .....	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	3
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書 .....	6
(第3四半期連結累計期間) .....	6
(第3四半期連結会計期間) .....	7
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	8

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間における当社グループの状況は、主力の麦茶が堅調に推移したほか、ビーフジャーキーが引き続き好調を維持、新商品の「ごぼう茶」も好調な立ち上がりを見せました。

損益面では、販売促進費の増加や、ビーフジャーキーを生産する中国の人件費高騰などのマイナス要因があったものの、事業再建に伴う経費や支払利息等の削減効果、生産面における合理化、更に純輸入企業である当社には円高もプラスに作用し、第2四半期連結会計期間の営業及び経常損益の黒字転換以後、順調に利益額を増加いたしました。

以上より、当第3四半期の連結業績は、売上高116百万円（前年同四半期比10.0%増）、営業利益2百万円（前年同四半期は営業損失5百万円）、経常利益2百万円（前年同四半期は経常損失3百万円）、四半期純利益2百万円（前年同四半期比70.8%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### ①飲料事業

烏龍茶、杜仲茶など既存の健康茶は不振が続いたものの、主力商品である麦茶はほぼ前年同期並みの売上水準を維持したほか、夏季より販売を開始した新商品の「ごぼう茶」が、一部報道による小規模なブームを受け順調に取扱い先を開拓し若干の増収となり、当第3四半期連結会計期間は売上高40百万円、営業利益8百万円となりました。

#### ②珍味事業

ビーフジャーキーは、引き続き相手先ブランドによる供給（OEM）が好調に伸長したほか、駄菓子扱い商品の伸長や、100円ショップへの納入もあり増収が続いております。損益面では、生産する中国の人件費高騰がマイナスに作用したものの、生産量の増加効果や生産合理化の推進、円高もプラス要因となり、当第3四半期連結会計期間は売上高65百万円、営業利益10百万円となりました。

#### ③その他

業務用商品である乾燥野菜、ナルト及びだしものとの減収が続いたほか、12月より生産開始したOEM珈琲飲料の生産準備や投資が損益に対しマイナスに作用し、当第3四半期連結会計期間は売上高10百万円、営業損失0百万円となりました。

### (2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末における総資産は440百万円（前連結会計年度末は364百万円）、負債は78百万円（前連結会計年度末は101百万円）となりました。純資産は平成22年6月30日付で株式会社神戸物産及び高嶋順氏から第三者割当増資の払込みを受けたこと等により前連結会計年度末から99百万円増加し362百万円（前連結会計年度末は263百万円）となり、自己資本比率は82.3%（前連結会計年度末は72.2%）となりました。

### (3) 連結業績予想に関する定性的情報

連結業績予想につきまして、現時点では、平成22年10月27日発表の当社「業績予想の修正に関するお知らせ」に記載の内容から修正はございません。業績に影響を与える事象が明らかになり次第、適宜お知らせいたします。

なお上記の予想は、当社が現時点で把握可能な情報から判断する一定の前提に基づいた見込みであり、多分に不確定な要素を含んでおります。

実際の業績は今後様々な要因によって当社の見込みと異なるかもしれないことをご承知おきください。

## 2. その他の情報

### (1) 重要な子会社の異動の概要

当第2四半期において、重要な子会社の異動はありません。

### (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

#### ・棚卸資産の評価方法

当四半期連結会計期間末における棚卸高の算出に関して、実地棚卸を省略し前連結会計年度に係る実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法および棚卸資産の簿価切下げに関して収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

### (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

#### ・会計処理基準に関する事項の変更

(資産除去債務に関する会計基準の適用)

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

これにより、当第3四半期連結累計期間の営業利益及び経常利益はそれぞれ30千円減少し、税金等調整前四半期純利益は70千円減少しております。

#### ・表示方法の変更

(四半期連結損益計算書)

「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等」の一部を改正する内閣府令(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用により、当第3四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。

### (4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当社グループは、前連結会計年度まで5期連続して営業損失、経常損失及び当期純損失を計上していることから、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループは、当該状況を解消・改善すべく、取締役会及び常務会が中心となって策定した事業再建計画に従って前連結会計年度までに、役員報酬、社員給与及び子会社管理職社員の減俸、本社組織の簡素化、本社不動産の売却、不採算事業及び子会社からの撤退、国内工場の統廃合及び廃止工場不動産の売却、有利子負債の完済、本社機能の移転に伴う賃借料等の削減を行ってまいりました。

当連結会計年度においても、引き続き一般経費の圧縮や営業力及び商品開発力の強化を図るなど、財務状況の改善に継続的に努めているほか、平成22年6月30日付で株式会社神戸物産及び高島順氏から第三者割当増資の払込みを受けて資本状況が大幅に改善し、更に平成22年8月25日付で株式会社神戸物産と業務提携を締結し、商品の安定的な販路確保や商品開発力の向上、生産稼働率の安定が図れることに伴う損益改善が見込まれております。

しかし、これらの施策は実施途上であり、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は、継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	108,756	28,339
受取手形及び売掛金	97,865	70,291
商品及び製品	22,940	30,063
原材料及び貯蔵品	25,167	27,943
その他	1,220	2,673
貸倒引当金	△252	△236
流動資産合計	255,697	159,074
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	67,671	72,957
機械装置及び運搬具(純額)	16,769	7,794
土地	47,780	47,780
リース資産(純額)	3,208	4,278
その他(純額)	2,321	2,808
有形固定資産合計	137,752	135,620
無形固定資産		
リース資産	11,614	15,485
その他	14,367	15,738
無形固定資産合計	25,982	31,224
投資その他の資産		
投資有価証券	14,463	31,780
その他	7,084	6,844
投資その他の資産合計	21,548	38,625
固定資産合計	185,282	205,469
資産合計	440,980	364,544
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	35,507	40,230
リース債務	6,917	6,917
未払法人税等	1,233	1,623
賞与引当金	330	1,260
未払金	17,813	30,073
その他	6,607	3,565
流動負債合計	68,408	83,670
固定負債		
リース債務	8,646	13,834
繰延税金負債	1,125	3,795
固定負債合計	9,772	17,629

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
負債合計	78,180	101,300
純資産の部		
株主資本		
資本金	462,750	413,250
資本剰余金	328,450	278,950
利益剰余金	△412,326	△419,907
自己株式	△782	△782
株主資本合計	378,090	271,509
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,639	5,529
為替換算調整勘定	△16,930	△13,795
評価・換算差額等合計	△15,290	△8,265
純資産合計	362,799	263,243
負債純資産合計	440,980	364,544

(2) 四半期連結損益計算書  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)
売上高	405,261	437,018
売上原価	242,000	251,531
売上総利益	163,261	185,486
販売費及び一般管理費	175,361	182,385
営業利益又は営業損失(△)	△12,100	3,101
営業外収益		
受取利息	27	35
受取配当金	776	484
為替差益	395	721
雑収入	2,058	1,483
営業外収益合計	3,257	2,724
営業外費用		
支払利息	235	—
株式交付費	—	1,428
雑損失	353	506
営業外費用合計	589	1,935
経常利益又は経常損失(△)	△9,432	3,890
特別利益		
投資有価証券売却益	6,771	5,348
特別利益合計	6,771	5,348
特別損失		
前期損益修正損	411	—
事業整理損	3,369	—
その他	—	40
特別損失合計	3,780	40
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△6,442	9,199
法人税、住民税及び事業税	435	1,618
法人税等合計	435	1,618
少数株主損益調整前四半期純利益	—	7,581
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△6,877	7,581



(第3四半期連結会計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結会計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日)
売上高	106,050	116,634
売上原価	66,046	66,525
売上総利益	40,003	50,109
販売費及び一般管理費	45,182	47,813
営業利益又は営業損失(△)	△5,178	2,296
営業外収益		
受取利息	9	21
受取配当金	378	143
為替差益	370	—
雑収入	547	581
営業外収益合計	1,305	746
営業外費用		
支払利息	22	—
為替差損	—	325
雑損失	37	50
営業外費用合計	60	375
経常利益又は経常損失(△)	△3,932	2,666
特別利益		
投資有価証券売却益	6,604	28
その他	—	—
特別利益合計	6,604	28
特別損失		
前期損益修正損	411	—
事業整理損	586	—
特別損失合計	997	—
税金等調整前四半期純利益	1,674	2,695
法人税、住民税及び事業税	145	83
法人税等合計	145	83
少数株主損益調整前四半期純利益	—	2,611
四半期純利益	1,529	2,611

(3) 継続企業の前提に関する注記

当社グループは、前連結会計年度まで5期連続して営業損失、経常損失及び当期純損失を計上していることから、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループは、当該状況を解消・改善すべく、取締役会及び常務会が中心となって策定した事業再建計画に従って前連結会計年度までに、役員報酬、社員給与及び子会社管理職社員の減俸、本社組織の簡素化、本社不動産の売却、不採算事業及び子会社からの撤退、国内工場の統廃合及び廃止工場不動産の売却、有利子負債の完済、本社機能の移転に伴う賃借料等の削減を行ってまいりました。

当連結会計年度においても、引き続き一般経費の圧縮や営業力及び商品開発力の強化を図るなど、財務状況の改善に継続的に努めているほか、平成22年6月30日付で株式会社神戸物産及び高島順氏から第三者割当増資の払込みを受けて資本状況が大幅に改善し、更に平成22年8月25日付で株式会社神戸物産と業務提携を締結し、商品の安定的な販路確保や商品開発力の向上、生産稼働率の安定が図れることに伴う損益改善が見込まれております。

しかし、これらの施策は実施途上であり、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は、継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。